総　説

「No Hit Zone」　－敷地内非暴力区域運動－ 院内研修会の試み

富山県立中央病院　小児科，同　院内要保護委員会，同　看護部
五十嵐　登，柿沢有希子，山岸　久枝，松井　弘美

要　旨

No Hit Zone（NHZ）とは，医療機関敷地内で養護者による子どもや弱者への暴言・体罰が確認された場合，医療者が支援的に関わることで不適切言動の低減を目指す運動である．今回，NHZ 院内研修会を開催した．前半は，①体罰とは何で，弱者に何をもたらすか，②医療機関内で経験される不適切言動に関するアンケート結果，③暴言・暴力場面での関わり方の原則を講義，後半はグループ討議とした．研修会終了後には参加者全員が NHZ のコンセプトに共感し，多くが支援的に対応できそうだと回答した．1）子ども / 弱者への暴言 / 暴力は，深刻な心理的問題に繋がり得ることを理解し，2）行為者と共感的に話し合い，体罰に頼らない問題解決法を考えて支援し，3）自施設を患者 / 家族・職員にとって安心安全な雰囲気を作り出すという NHZ の目的を共有できたように思われた．

key words：児童虐待，No Hit Zone，虐待予防，体罰

富山県立中央病院医学雑誌 2024；47（1・2）1－5

はじめに

児童虐待相談対応件数は年々増加の一途で，令和３年度の全国集計では児童相談所（児相）だけで20万件を上回っている[1)]．加えて，各市町村窓口での相談件数は令和２年度15万件を超えており[2)]，年間30万件以上が気がかり事例として対応されている．富山県も同様で令和２年度の児相相談件数は1000件越えである[3)]．従来，虐待対応を巡る医療機関の役割は，医学的所見を呈するに到った事例を見逃さずに診断し，関係機関に通告する　いわば危機対応が主体であった．しかし，子どもへの「体罰禁止」が法制化された趨勢も踏まえ，虐待予防こそ重要との認識が拡がりつつある．厚労省の虐待防止 HP には，子育てに困難を抱える保護者への支援的メッセージが溢れている[4)]．

No Hit Zone（NHZ）とは，医療機関敷地内で養護者による子ども / 弱者への暴力（暴言・体罰）が確認された場合，支援的に関わることで不適切言動の低減を目指す米国に始まる運動で，本邦でも HP 立ち上げなど啓発活動が始まっている[5)]．今回，まず院内コンセプト共有のため，①施設内での不適切言動目撃経験と対応についてアンケート調査，②教材による座学，幼児・高齢者への不適切言動場面をグループ討議するなど NHZ 研修を試みたので報告する．

研修会　－企画・運営・協議内容－

NHZ に賛同する院内要保護委員会メンバーを中心にワーキンググループ（WG）を立ち上げ（2022年11月），NHZ ホームページ（HP）[5)] 上の医療機関向け研修教材を参考に院内研修会の内容について協議を重ねた．図１の内容で前半は講義，後半はグループ討議として2023

1）研修会の背景/目的
体罰とはなにか？　何をもたらす？
施設内暴力に関するアンケート結果（院内＆院外）
不適切言動現場での関わり方の原則
付：NHK「コロナ禍　暴言/暴力など子どもへの不適切な関わりに悩む保護者」動画視聴

2）子ども/弱者への不適切言動場面を巡るグループ討議＆発表
①幼児学童（外来での暴言・体罰場面）
付：保育士てい先生「子どもの叱り方」you tube視聴
②高齢者（愛知県成人虐待研修動画）
気がかりな場面に遭遇したら、どんな心構えで声掛けする？

3）アンケート

4）閉会「No Hit Zone」の目指すもの

図１　研修会次第

年１月 27 日に院内研修会を企画した．講義では，①体罰とは苦痛・不快感を意図的にもたらす行為と定義されること，②親権者に法的に認められてきた懲戒権（監護・教育に必要な範囲内で子を懲戒（殴るなど）できる）が，民法改正により 2022 年 12 月に削除されたこと，③民間の意識・実態調査では，しつけとしての体罰を容認する風潮が少なからずあること　などを伝えた．合わせて，叩く・殴るなどの身体的行為のみならず，言葉の暴力（叱りつける・貶める），人格を無視した強制的な支配，面前での夫婦ゲンカ・兄弟への暴言/暴力もまた心理的虐待・体罰であること（図２）．多くの研究で，言葉による心理的暴力は時に身体的・性的虐待をも凌駕する心理社会的影響を残し得ることが示されており[6]，小児期の逆境体験（Adverse Childhood Experiences：ACE）が生涯に渡る健康被害･社会的不適応にも繋がる場合があり，ACE ピラミッドと言われていること[7]を伝えた（図３）．

図２　不適切養育

図３　体罰が子どもに及ぼす影響

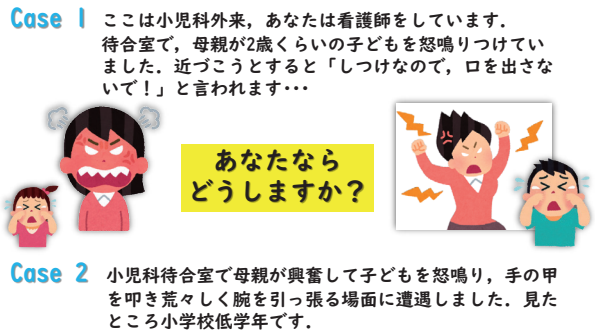


図４

後半のグループ討議では，小児科外来での保護者による不適切言動の場面設定（図４），また高齢者に対しては「愛知県成人虐待研修動画」[8]の一場面を視聴しながら，どのように関わり・声がけするかを話し合った．予め，基本的姿勢として，①保護者や介護者が感じているであろうフラストレーションやストレスに共感すること，②相手の頑張りを尊重し，否定せずにいることを態度に示すこと，③「支援したい」という偽りのない気持ちを伝え，解決に向けた選択肢を提示して一緒に考えることが大事であることを伝えた．また，「コロナ禍　暴言/暴力など子どもへの不適切な関わりに悩む保護者」の心情に共感できるよう，NHK「おはよう日本」で放映されたネット動画[9]，ついきつく叱ってしまう保護者に向けた You tube 動画「保育士てい先生　子どもの叱り方　なんで〇〇したの？⇒言い換え」[10]を視聴した．

2022 年 11 ～ 12 月に，院内・院外の医療機関スタッフ（n=79，医師３名・看護師 65 名・その他 11 名）を対象に，自施設内で保護者による子どもへの不適切言動場面の経験と対応について，図４の内容でアンケート調査し，結果について研修会で紹介・共有した．

研修会には看護師 22 名（小児科・NICU・救命救急センター・内科など），医師 13 名（小児科・内科・初期研修医）が参加して開催された（図５）．研修会の内容について，アンケートに答えた 33 名全員が研修会の内容に興味を持てた，開催時間も丁度であったと回答した．

院内要保護委員会

「No Hit Zone」：敷地内非暴力区域運動に関連してアンケートにご協力ください

医療機関敷地内で子どもへの暴力（暴言・体罰）が確認された場合、医療者が支援的に
関わることで、子どもへの不適切な言動を低減してゆくことを目的とした医療機関発信の取り組み

施設：県中　その他（　　）　職種：医師　看護師　その他（　　）

１）過去にご自身の病院/施設内で以下のような場面に遭遇されたことがありますか？
（複数選択可）
①子どもを怒鳴りつける/暴言を浴びせる
②子どもを荒々しく扱う（腕を引っ張るなど）
③明かな体罰を加えている（ひっぱたく・蹴るなど）

いずれかの経験があるとお答えになった方へお伺いします

２）どのくらいの頻度に経験されましたか？（択一）
・年数回以下　・月１回前後　・月数回程度　・毎週

３）その場面で、何か声がけや支援的なことをなさいましたか？（択一）
①概ね対応した
②対応したこともあった
③しなかった（あるいは　出来なかった）

４）３）で③とお答えになった方に　その時のお気持ちをお聞かせください
（複数選択可）
①何と声がけしていいか判らなかった
②親の怒り・行為がエスカレートすると思った
③親から脅されると思った
④親に恥をかかせると思った
⑤その他　自由記載

ご協力　有り難うございました

図５

自施設内での保護者による不適切言動場面について，79名中33名（＝42％）が，概ね年数回程度に目撃経験があると回答し，内12名（＝36％）が対応出来なかった（あるいは　しなかった）と答えた．その理由として，何と声がけしていいか判らない，親の怒りがエスカレートするかもしれない　などが大半であった（図6）．

幼児・学童への暴言・暴力場面での声がけについての討議内容として

・「どうされたんですか？」（穏やかに）聞いてみる
・何に怒っているのか，何が大変なのか　尋ねる
・「できることがあればと思い，声をかけた」と自分の気持ちを伝える
・お母さんを助けたいことを前面に出して声をかける
・「お待たせしてすみません」と言って，静かな場所にお連れする
・「大変ですよね」と，この年代の子供をもつ母親の大変さを理解し，話ができるようにする
・子どもの反応に親が反応 ⇒ 子どものつらさを理解して対応する
・子どもの気持ち（つらさ，怖さ等）を代弁して，親に伝える
・親，子ども・・・どちらかの味方につくのは難しい，こじれるかも　などの意見が交わされた

No Hit Zone院内研修会
2023年1月27日　PM5:30~6:30
於　中央病棟B　会議室

研修内容に興味を持てましたか？	
はい	33
いいえ	0
どちらとも	0

研修会の時間はどうでしたか？	
丁度	33
長い	0
どちらとも	0

図6　No Hit Zone 院内研修会

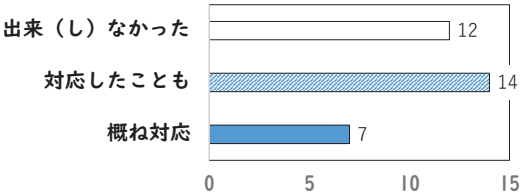
NHZアンケート(n=79)
2022年11-12月実施

	県中	看護協会
医師	3	0
看護師	34	31
その他	3	8

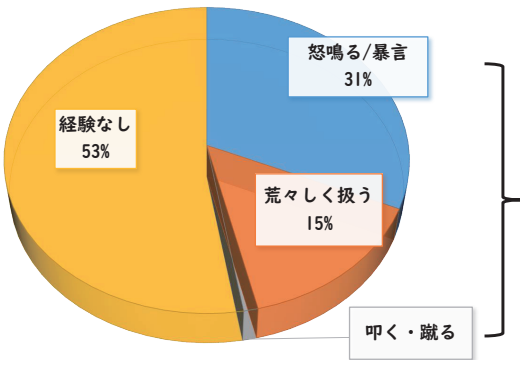
保護者による不適切言動の経験頻度

年数回以下	30
月1前後	0
月数回	3
毎週	0

何らかの対応/声がけしましたか？



施設内での不適切言動の経験



33/79＝42%
何らかの
不適切言動を
目撃

その時の気持ちは・・・

何と声がけしていいか判らない	15
親の怒りがエスカレートするかも	10
親から脅されるかも	1
親に恥をかかせる	3
その他	1

図7

高齢者への（あるいは対応する医療スタッフに向けた）暴言・暴力場面での声がけについての討議内容として

・一人で抱え込まず，組織として対応することが大切
・お世話されていないであろう高齢者では入院すると次に繋がるのでは
・とりあえず話を聞く，怒っている理由をまず聞く
・「何があったの」「何かお困りのことはないですか？」など共感の姿勢を示す
・家庭の事情やできる支援がないか困っていることを聞き出す
・使用できる福祉サービスを情報提供して地域連携へつなげる
・社会的な入院適応も考慮して，患者・家族と話し合って対応してみる
・他の家族がいるかを確認し，協力できる家族の確認し連絡をとってみる
・まずは受け止めて支援できる方法を提供する　などの意見が交わされた

研修会終了後のアンケートには，回答した33名全員がNHZのコンセプトに大いに共感できる，もしくは出来る・出来そうと回答していた．共感できる内容について，①体罰が子どもに及ぼす影響を理解する，②暴力的な場面で支援的に声がけする，③状況に応じて要保護委員会に相談するなどの項目に7-80％が対応できそうと答えた（図7）．研修会前半で紹介したNHK「おはよう日本」のネット動画，保護者に向けた「子どもの叱り方」のYou tube動画について，多くの参加者から“共感できた”，“身につまされた”との意見が聞かれた．

考　察

虐待相談件数は年々増加の一途で，令和3年度には児相・市町村窓口合わせて30万件を越えることは前述の通りで[1,2]，これは18歳未満小児人口当たりに換算すると2人/100人の頻度であり，今や日常的に遭遇する事態と言える．虐待を受けた児童の家庭状況調査では，ひとり親・経済的困窮・社会的孤立・夫婦間不仲・育児疲れなどの要因が複合的に併存している[11]．医療者が虐待対応するに際して，こういった社会的背景を理解することは一義的な意味がある．

また，懲戒権として法律上容認されてきた子どもへの体罰が2020年4月児童虐待防止法改正によって禁止され，2022年12月には懲戒権そのものが民法改正によって削除された．こういった大きな社会趨勢の変容に伴って，そもそも体罰とは何で，どういった影響を子どもにもたらすのか，大きな注目を集めている．厚労省の虐待防止に関するＨＰには体罰に関するリーフレットや子どもの人権に関する資料が数多く掲載されている[4]．そこには身体的虐待に限らず，言葉の暴力（叱りつける・貶める），人格を無視した強制的な支配，面前での夫婦ゲンカ・兄弟への暴言/暴力もまた心理的虐待・体罰であることが銘記されている．言葉による心理的暴力は時に身体的・性的虐待をも凌駕する心理社会的影響を残し得ることが多くの臨床研究で示されており[6]，小児期の逆境体験（Adverse Childhood Experiences：ACEs）が生涯にも渡る健康被害・社会的不適応にも繋がる場合があり，ACEピラミッドと言われている（図3）[7]．医療者が虐待対応するに際して，暴言も含めた心理的虐待もまた体罰であることを理解することも重要と言える．

一方，一般人を対象とした2万人規模の意識調査では，経年的に体罰容認率は低減しつつあるものの，今なお約4割近くが状況に応じて体罰を容認しており，お尻をたたく・手の甲を叩く程度は半数近くが容認しているとの報告がある[12]．実際に，医療者を対象とした今回のアンケート調査でも79名中33名が自施設内で子どもへの暴言・怒鳴り・荒々しい扱いといった不適切言動を目撃していた．そして，その場面で何と声がけしていいか判らず，対応しなかった，あるいは出来なかったとの回答が3割以上であった（図6）．

NHZは上述の状況を踏まえた上で，医療機関敷地内で養護者による子ども/弱者への暴力（暴言・体罰）が確認された場合，支援的に関わることで不適切言動の低減を目指す運動であり，今まさに全国展開に向けた啓発活動が小橋・溝口らによって取り組まれつつある[5]．NHZ-HPには当運動の発展に向け，レベル1：検討段階から，レベル5：応用段階までの5段階が提示されている．今回の研修会では，参加者にNHZのコンセプトにまず共感いただくことを主目的として内容を企画した．そのために，何故保護者が心ならずも不適切言動に至ってしまうのか？　その心情・状況を理解することが最も肝要であろうとＷＧ内で話し合いを重ねた．NHK「おはよう日本」で放映されたネット動画「コロナ禍　暴言/暴力など子どもへの不適切な関わりに悩む保護者」[9]の視聴は多くの参加者の共感を得た．また参加者の大半を占める看護師の多くは，現在進行形で子育て中であり，決して人ごとでないと感じる方も少なくなかった．You tube動画「保育士てい先生子どもの叱り方　なんで○○したの？⇒言い換え」[10]の視聴もまた，多くの参加者の共感・納得を得たように思われた．こういった動画を研修会前半の座学で視聴いただいたことは，後半のグループ討議に大いに役だったのでないかと思われた．

外来や病棟で経験するかもしれない，保護者・介護者に

よる不適切言動場面に対応することは，言うまでもなく容易なことではなく，決まったマニュアルがあるわけでもない．しかし，基本的姿勢として，①保護者や介護者が感じているであろうフラストレーションやストレスに共感すること，②相手の頑張りを尊重し，否定せずにいることを態度に示すこと，③「支援したい」という偽りのない気持ちを伝え，解決に向けた選択肢を提示して一緒に考えることが大事であることを伝えた上でのグループ討議内容は，いずれも NHZ のコンセプトそのものであった．また研修会直後の参加者へのアンケート結果も同様であった．

NHZ が目指すものは，1）子どもへの体罰（暴言 / 暴力）は，深刻な心理的問題に繋がり得ることを理解すること，2）行為者と共感的に話し合い，体罰に頼らない問題解決法を一緒に考えて支援することであり，3）患者 / 家族・職員にとって安心安全な雰囲気を作り出し，自施設の暴言 / 暴力を減らして地域へも拡大することである．子どもへの暴力行為が重大な心理社会的な健康問題に繋がり得ることを発信することも，小児科医にとって重要な命題であろう[5]．当院での取り組みは，始まったばかりであり，引き続き要保護委員会などが中心となって対応を重ねたい．ただし，保護者や介護者がスタッフに対して暴言や怒りが顕わで対応が難しい場合は，病院としての暴力対応も考慮すべきであり，身体的虐待が明らかならば要保護委員会へ連絡の上で児相通告も躊躇わないこともまた肝要といえる．NHZ は，あくまで育児不安を抱える保護者に向けた支援的対応であり，従来医療機関が担ってきた危機対応とは一線を画することを認識することもまた重要である．

最近では逆境的小児期体験（ACEs）が成人期以降の心身の健康にどのような影響をもたらすかばかりではなく，ACEs に対する解毒剤とされる保護的体験（PACEs）とは何か？　に関連してアメリカ心理学会から最新の研究成果が報告されている[13]．虐待対応する医療者もまた逆境と回復についての理解を深めることも肝要であろう．

謝　　辞

NHZ 院内研修会開催にあたり，数々のご教示を頂きました鴨川市立国保病院院長　小橋孝介先生に深謝申し上げます．

文　　献

1）令和３年度　児童相談所での児童虐待相談対応件数 Microsoft PowerPoint - ②（速報値）令和３年度児童虐待相談対応件数（mhlw.go.jp）2022 年９月現在
2）令和２年度福祉行政報告例　児童福祉
福祉行政報告例 令和２年度 福祉行政報告例 児童福祉 | ファイル | 統計データを探す | 政府統計の総合窓口（e-stat.go.jp）2021 年 11 月現在
3）五十嵐登，柿沢有希子，松井弘美　医療機関における要保護・要支援対応　－児童虐待初期対応の要点と予防的視点－　富山県立中央病院医学雑誌　2022；45（3/4）：54-61
4）厚生労働省　児童虐待防止対策
児童虐待防止対策 | 厚生労働省（mhlw.go.jp）2023 年２月現在
5）＜ノー・ヒット・ゾーン＞医療現場から体罰防止を考える会
ノー・ヒット・ゾーン - 医療現場からの体罰防止を考える会（umin.ac.jp）2023 年２月現在
6）Martin H Teicher 1, Jacqueline A Samson, Ann Polcari, Cynthia E McGreenery　Sticks, stones, and hurtful words: relative effects of various forms of childhood maltreatment. Am J Psychiatry 2006 Jun 163（6）993-1000.
7）Centers of Disease Control and Prevention. Adverse Childhood Experiences. Adverse Childhood Experiences (ACEs) (cdc.gov) 2023 年２月現在
8）愛知県高齢者虐待対応マニュアル映像版
愛知県高齢者虐待対応マニュアル映像版（ダイジェスト版：前編）- YouTube 2023 年２月現在
9）コロナ禍 暴言や暴力など 子どもへの虐待に悩む母親の相談増
コロナ禍 暴言や暴力など 子どもへの虐待に悩む母親の相談増 | 児童虐待 | NHK ニュース 2023 年２月現在
10）「なんで○○したの！」を言い換えるだけで【子どもへの叱り方】が変わった
「なんで○○したの！」を言い換えるだけで【子どもへの叱り方】が変わった - YouTube 2023 年２月現在
11）東京都社会保険局ホームページから　児童虐待の実態 000012466.pdf (moj.go.jp) 平成 13 年 10 月現在
12）Save the Children　どうなる？　子どもへの体罰禁止とこれからの社会
どうなる？子どもへの体罰禁止とこれからの社会 | セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (savechildren.or.jp) 2023 年２月現在
13）ジェニファー･ヘイズ･グルード，アマンダ･シェフィールド・モリス，菅原 ますみ（監修，翻訳）：
小児期の逆境的体験と保護的体験 ― 子どもの脳・行動・発達に及ぼす影響とレジリエンス．明石出版，2022/12/22